

グリーン情報 GardenCenter

[ガーデンセンター]

2014年7月 (奇数月発行)
vol.450

最新!! 園芸用品のトレンド

◇ルポルターージュ店舗
ひかりフラワー

別冊 フラワートライアルジャパン



●**特集**

花育 2014

「感覚をフルに使う花育」のすすめ

見て、触り、香りを楽しむ花育

(株)花ライフ夢研究所 上田奈美



花育実践者向けセミナー光景



日本花普及センターの主催により今年春、関東東海花の展覧会会場の一部をお借りし、花育実践者向けセミナーを開催しました。当日は市場関係者、生産者の方、保育園等で花育アドバイザーとして活動を始めている方など多くの方が集まりました。

花育実践のマニアルならびに副読本の検討委員として携わっている中、年齢を問わず、花育を楽しく体験する新しいカリキュラムは何か?と思い悩みました。花育で最も重要なことは、まず植物に触れ、花や緑と共に過ごす中で、日々変化して生長する姿を見守ることの楽しさ、愛情を持つて接することの大切さを感じ、目には見えないけれどほっと温かい心、優しい気持ちを育むことです。

そこで、インテリアとしても広く知られ、雑貨店等でお洒落に並ぶ多肉植物に注目してみました。ユニークで不思議な姿・形をしているものが多く、根、茎、

葉などに水分を蓄える機能を持つことで毎日の水やりが必要なく、初心者でも比較的簡単に育てることが出来る植物です。この多肉植物をメインにして、子ども達の好奇心を引き出す要素を意識して織り込み、美術的デザイン思考と技術家庭科的な工作作業を加えた内容を考えてみました。目で見て、手で触り、香りを楽しみ、音を聴く等、感覚をフルに使い、「わくわく・どきどき」感を刺激したいと考えます。準備するものは、多肉植物の挿し穂を1人当たり、10〜20本程、間伐材の小さな切株、固まる土(ネルソル)、麻布等です。多肉植物の挿し穂は、作業する2、3日前には切り取り、切り口を乾かしておくのと良いでしょう。多くの品種があります。視覚的にはエケベリアなど1つで存在感のある大きい多肉植物に、クラッスラやセダム類など、小さな可愛らしい品種を一緒にそろえるとデザインがしやすく、また、表面のテクスチャーの違い、



1



2



3

つるつる、ふわふわ、ざらざら等の手触りを楽しむことができます。また、フレクトランサス・アロマティカスは、心地よい爽やかな香りがありおすすめの多肉植物のひとつです。

固まる土(ネルソル)は、袋を開けて水を加えて練ることにより、柔らかく粘りが出て、粘土のように自由に形が作れ、乾かすと固まり形がくずれません。向き合う対象者により、幼児・園児の場合には、両手の掌で小さな団子玉をつくり、そこに差し穂を1本差すだけで、多肉植物のオブジェが出来上がります(写真①)。

今までに土を触ったことがない子どもが土をこねるという作業は、楽しい体験になります。土が乾く前にスパンコールやビーズなどを付けて楽しむことも容易です(写真②)。また、土が乾いてから毛糸を巻いて可愛いインテリアにもなります(写真③)。



4

対象が小・中学生以上の場合には、間伐した檜の小さな切り株を台座にして、多肉植物の挿し穂で寄せ植えを制作します。

今回は埼玉県秩父の林業事務所に行き、不要になった檜を分けていただきました。小さな切り株ですが、手に持つだけで檜風呂に入った時のような良い香りが広がります。また檜の表面がつるつるして、土が乾いた場合に土が横に滑ってしまいますので、土が動かぬように事前に檜に釘を2本打ち、その上に土を被せて山を作ります。釘は2cm程の長さがあれば十分ですが、ハンマーを使って、指を打たぬように「トントントン」と、音を立てて、上手に打ちつけることも大事な体験になります。

そこに割箸で穴を開けて、思い思いの多肉植物の挿し穂を挿して多肉の小山



5

を作ります。デザインは各人自由です。切り株全体を土で覆ってもよいですし、フィギュアを飾る場所を残し、小さな山でもいでしょう(写真④)。

ポイントは固まる土の山に水が浸透するように割箸で穴を2〜3程開けておくことです。水やりは制作後すぐには与えず、1カ月程経過して最初の水やりをします。その後は月に1〜2回の水やりでOKです。

さらに、麻布を利用して、多肉植物で直径20cm程のリースを作ることできます。巻きずしを作る時の手法で、麻布を幅約12cm長さ60cm程に切り、培養土を中に入れ、くるくると細巻を作り、両端をワイヤーで留めて円形にします。そこに割箸で穴を開けて多肉植物の挿し穂を挿すと完成します(写真⑤)。



これらは多肉植物を利用して、子どもから大人まで皆で楽しめる内容の一例です。ぜひ、全国で実践して下さい。私は、檜の切り株を台にしましたが、海がある場所でしたら流木を拾いにいき、川が近くにあれば石ころを台にして、地域に合った内容で多肉植物を植えるのも素敵だと思います。

最後に、花育のカリキュラムで人気の高い「芝坊や」を紹介します。

さまざまな顔形、洋服のデザインができて、想像が膨らみます。冬場でも種を植えてから室内10日程で芽が出てきます。底面給水を利用して頭の培養土へ水が送られるため、毎日ペットボトルに水を足し、芝が伸びてきたら、切り戻しを繰り返すことで芝が密になり、綺麗な



芝坊や
生長後

緑色の髪の毛が広がります(写真⑥)。

「芝坊や」は制作段階で、土を触り、種を植え、布を切り、デザインをする等仕事の部分と、その後の生長を目で追う等さまざまな体験が盛り込まれています。そして日々接する事で愛情も生まれ、老若男女問わず楽しめる花育カリキュラムです。さらに全国に広まり、「芝坊や」コンテストの開催を夢見ています!

6